

令和5年度 第1回白井市廃棄物減量等推進審議会

<議事概要>

日 時：令和5年7月4日（火） 午前10時00分から11時40分まで

場 所：白井市役所東庁舎1階会議室101

出席委員：11名

鬼沢良子 会長、山谷修作 副会長、砂田瑞穂 委員、高山富栄 委員、吉村正之 委員、
寺田義久 委員、山本伴次 委員、佐久間仁宣 委員、藤本秀樹 委員、井川芳枝 委員、
生田目千鶴子 委員

欠席委員：2名 中澤公彦 委員、藤田均 委員

傍聴者：2名

1 開会

2 会長あいさつ

- 今回は基本方針の取組み項目を検討することとなる。
- 前回の会議において、次期基本方針策定の考え方が示されているが、現行の基本方針を踏襲しつつ、修正や改訂をしていくものとなる。
- また、行動変容を促せるよう動機付けを意識し、シンプルかつわかりやすい内容や表記とする必要がある。
- よりよいものを作っていきたいと思っていますので、皆さんの忌憚のない意見をお願いします。

3 議事

【会長】

- ・出席委員は委員13名中、11名であり、白井市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例施行規則第2条第5項の規定による会議開催の条件（過半数の出席）を満たしているため、ただいまから会議を開きます。
- ・本会議は、白井市審議会等の会議の公開に関する指針により原則公開とされており、本日の議題には非公開情報がないため、全て公開といたします。
- ・傍聴人は資料とともに配布されている「傍聴上の注意事項」を読み、内容を守るようお願いいたします。

(1) 白井市ごみ減量化・資源化基本方針の効果の確認について

【会長】

- ・(1) 白井市ごみ減量化・資源化基本方針の効果の確認について、事務局から説明願います。

(事務局説明)

※資料訂正あり 資料1 7ページ「⑥講座等の開催回数」⇒「⑦講座等の開催回数」

【会長】

- 事務局の説明が終わりました。何か御意見や御質問がありましたらお願いいたします。

【副会長】

- 全国、関東地方、特に首都圏のコロナに伴うごみ量の変化をチェックしているのですが、家庭系は令和2年をピークに増えている。その分、事業系は減っている。ところが、白井市の場合は、令和2年、3年と増えている。事業系も増えている。これは特異なケースなのですが、その理由というのはどういったものでしょうか。新たに事業者が設置されたのでしょうか。

【事務局】

- 詳細な分析をしたわけではないのですが、市役所の南に大規模な商業施設が令和2年頃からオープンしています。事業系が増えたというのは、そのあたりの影響かと推測されます。

【会長】

- 令和2年の家庭系が増えたのは、コロナの影響で在宅時間が長くなったことで家庭での整理整頓が増えたことの影響があるのだと思います。
- 他に御意見等はございますか。

【委員】

- 事業系ごみの概要なのですが、事業系のごみの内容というのは分析されているのでしょうか。どういった物が多いのでしょうか。

【事務局】

- 主に可燃系ごみになります。

【委員】

- 事業者としてコロナになって清潔を保つということで、アルコールの除菌シートを多く使っています。そういったことで可燃ごみが増えているのだと思います。

【委員】

- 生ごみ処理容器の活用の内容というものは、どのようなものですか。

【事務局】

- 堆肥化容器が購入費用の3分の2、上限3千円となっており、処理機が購入費用の2分の1、上限3万円を助成する制度となっています。

【委員】

- どこに申請するのですか。

【事務局】

- 環境課の窓口での申請となりますが、購入した際の領収書が必要となります。

【会長】

- それでは、他になければ次に移らせていただきます。

(2) 次期白井市ごみ減量化・資源化基本方針の策定（改訂）について

【会長】

- 議事の2、次期白井市ごみ減量化・資源化基本方針の策定（改訂）について、事務局から説明をお願いします。

(変更する取組みについて事務局説明)

【会長】

- ただいま事務局から説明がありましたが、何か御意見があればお願いいたします。

【委員】

- 事業系ごみの冊子の配布とありますが、ホームページとかに掲載はありますか。企業はウェブで検索できるので、そういった方向に重きを置いた方が紙資源の節約にもなると思います。

【事務局】

- ホームページの方は確認をさせていただき、掲載していないようであれば、掲載させていただきます。

【委員】

- ごみ減量アドバイザーですが、以前は印西市の方で勉強会などがあったのですが、ここ数年活動がない状態で、活動していた方はたくさんいらっしゃったので、また一緒に活動できればと思います。

【事務局】

- ごみ減量アドバイザーの登録は、印西地区環境整備事業組合が行っている制度で、今回の基本計画からも抜けているという部分もあるので、組合に確認した上で調整してまいりたいと思います。

【会長】

- それでは、他になければ新たな取組みについて説明をお願いします。

(新たに行う取組みについて事務局説明)

【会長】

- ただいま事務局から説明がありましたが、何か御意見があればお願いいたします。

【副会長】

- 情報提供になりますが、これまでの容器包装プラスチックのマテリアルリサイクルというパレットに限定されていました。
- より付加価値の高い製品づくりを目指している企業があって、ごみ袋を作っています。有料化している都市が採用することになっていますが、品質はほとんど変わりありません。
- 今はまだ事業系のプラスチックなのですが、家庭系のプラスチックから作れるようにしたいという話がありました。プラスチックの再生技術というのはかなり進んでいます。

【会長】

- 今、東京都のオフィスから出る事業系プラスチックを使ってごみ袋を作成するといった実証実験が行われています。
- 他にいかかでしょうか。

【委員】

- 生ごみ堆肥化講座の開催が各所講座の開催に、生ごみ堆肥化の調査、研究がごみ減量等推進への課題の調査、研究に変更されていますが、一番大事なのは生ごみの処理をどうするかだと考えます。
- クリーンセンターに持ち込んでかかる費用を考えれば、生ごみの堆肥化の勉強会や研究をする時期にきていると思います。
- 生ごみを堆肥化するという事は、全国のあちこちで行われています。堆肥化した製品を商品としているところもあります。
- 定期的に、有志だけでも勉強や研究する機会を設けてみてはどうでしょうか。

【事務局】

- 市としても生ごみをどう処分していくかは課題と思っています。
- 事業系から出る生ごみは、事業として成り立つものとして回収されるようなことはあるのかと思います。
- 家庭から出る生ごみについては、専用のバケツを各世帯に配布して、それを集めるというような自治体があるということは聞いています。
- 実際に費用対効果等を見ながら、今後は情報収集に取り組んでいきたいと考えています。
- 市で具体的な案が浮かんだ際には、審議会に諮らせていただきたいと思います。

【委員】

- 削減に繋がるか分からないが、家庭ごみは野菜のくずなどが多いので、野菜を丸ごと煮込んで

調理する。

- 家庭ごみはティッシュペーパーとかが多い。何とか再利用できたりしないのかと思う。

【会長】

- 食品ロスの削減からも野菜を丸ごと使うメニューが沢山出ている。

【委員】

- 広報しろいがしっかり作られており、QRコードを読み取ることで講座等の情報を見ることができる。ごみについての掲載もされていた。広報等に掲載してもらえれば情報をチェックすることができる。
- 最近若い人も、ごみ減量や生ごみについて興味を持っている人が多いと思う。実際にごみ減量の仕方や生ごみ削減などを試行錯誤しながらやっているんじゃないかと思う。
- 身近に皆さんに情報を提供することが大切だと思う。ナッジを取り組めればとても良いと思う。
- 簡単な水切りや分別ができれば違って来るんじゃないかと思う。

【会長】

- 身近にすぐに情報取れること。また、具体的な情報を発信することが重要だと思う。

【委員】

- 資料1の5ページの燃やすごみの内訳で、可燃ごみの紙類が令和3年から令和4年にかけて急激に増えてることに気がなった。新しい取り組みの中に入るのかと思ったが、クローズアップされていなかったなので、可燃ごみの内訳の紙類について、今後の取組の中で取り組めたらと思う。

【事務局】

- 雑がみについて、資源で回収をするかを考えている。新聞紙や広報紙を使った雑がみ袋を考えている。今後、皆さんに周知できるように考えている。

【会長】

- 雑がみの分別は、習慣になっている人は分別するが、習慣がない人は可燃ごみに入れてしまう。プラスチックの代替品として紙の包装などが増えている。それを分別してもらうための広報が大事だと思う。

【委員】

- 質問ですが、紙おむつは再生ですることができないのか。

【事務局】

- ・松戸市に紙おむつを回収している事業者はいるが、市内での回収について実績がない状態。

【会長】

- ・紙おむつはリサイクルできないわけではないが、施設が足りないのと、リサイクルする際に大量の水を使うため、それをきれいにして排水するため、費用対効果の関係で現在は可燃ごみになることが多い。

【副会長】

- ・紙おむつについて、家庭系と事業系を分ける必要があると思っている。紙おむつの素材は紙とプラスチックがほとんど半分半分である。事業所から出るプラスチックは産業廃棄物になるため、本来は一般廃棄物処理する自治体からは外していいものになる。2年前に環境省が自治体にアンケートを取った際に、産業廃棄物として事業系の紙おむつは受け入れないと答えたのが84自治体あった。産業廃棄物と位置付けて受け入れないとした方がいいと考えている。施設に働きかけて、事業者責任で処理すべきものと理解を得て、産廃ルートで処理をすることで、ごみが減ると思われる。
- ・東京都小平市の審議会で組成調査を見たら、家庭系可燃ごみの紙おむつは全体の5%を占めていた。事業系可燃ごみの組成調査では紙おむつは全体の20%も占めていました。介護施設が多い都市だと思われる。拡大生産者責任で、処理をお願いすることでごみを減らしていけると思われる。
- ・四国のとある町でヒアリング調査したときに、ある年からリサイクル率が上がった。理由としては事業所から出る紙おむつの受入を止めたことでリサイクル率が上がった。
- ・市で取り組むのも1つだが、千葉県庁とも協議をして、対応を詰めるのも1つではないかと思う。

休憩

(3) その他

【委員】

- ・家庭から出る廃食油の拠点回収は西白井複合センターまで持っていかないといけない。それを自治会の集会所まで回収してもらえないか。

【事務局】

- ・市の取組みの廃食油の資源化の促進に当てはまることですが、各センターでの拠点回収として行っているが、他の拠点をつくることができるかなど今後、研究していく。

【委員】

- ・生ごみを木箱に土を入れ、家庭の一角に置いておくと、一週間ぐらいで土に戻るものを他の自

治体では行政が補助金や無償で配布している。そういったものを考えているかお聞きしたい。

【事務局】

- 市が行っている生ごみ処理機・処理容器の補助と同様の物かと思われる。今のところ、現状の物に対して支援していく。今後、新たな技術等が出てくる際に検討・研究していく。

【委員】

- 市の取組の中で一番利益率、メリット、費用対効果があるものを考えると、何が効果があるなどを掲げてもらえると、他の人たちも動きやすいと思う。子育てしている家庭からすると、日々の生活で疲れているため、リサイクルするとメリットがあるなどが見えないと動きづらい。千葉県の子ーパスはメリットがとてもあり、みんな持っているので子育て支援とタッグを組んで、リサイクルなどをするによって、その分行政が動いてくれるなど大きなメリットが得られるようにして促さないと、動きづらいと思う。
- 大きいメリットのものから掲げることによって、市民が動きやすくしていった方がいいと思う。

【会長】

- 今後、市民向けの普及啓発をしていく関係で誰を対象にどのような情報を流すことが重要になる。この取り組みをすることによって、どのくらいの金額が得するなどの「見える化」をした方が行動を促すきっかけになると思う。年代の情報の取り方によって行動が変わってくると思うので重要だと思う。

【事務局】

- ご意見ありがとうございます。パブコメ等の意見を聞く場でメリットを提示するという案はなかなかできていないと思われる。メリットを付与する、メリットとして感じてもらうことはどういうものかを意識して意見を聞いてみるのが大事だと思った。具体的に市としてメリットを示せるといいと思うが、一人ひとりに対してのメリットを示すのは難しいと思われる。今後子育て支援の部署と意見交換をするのは大事だと思ったので検討していきたい。

【委員】

- 若い世代の方のごみが大きく感じる。忙しくて分別する暇もないのかと思うくらいいろんなものが混ざって捨てられている。家庭系の排出量を455g/人日に抑えられて達成した場合、皆さんに還元されるアイデアなどが出ると良いと思いました。

【会長】

他に意見が無いようなので、事務局から何かございますか。

【事務局】

- 本年の会議開催日については、3月に行った前回会議で概ねの日程を示したスケジュールに基づき、具体的な日程について早めに調整しながら決定したいと考えていますので、引き続き日程調整に御協力をお願いいたします。

4 閉会

【会長】

- 以上をもちまして、令和5年度第1回白井市廃棄物減量等推進審議会を閉会いたします。皆様、御意見御協力ありがとうございました。